

2022 年度 昭和大学 II 期

【 講 評 】

例年通り大問 4 題で出題された。I 期同様、全体の難易度はやや下がり、解きやすい問題が並んだ。1 次試験を突破するためには、全体で 7 割の得点を確保したい。

① ベクトル (数学 B) 【標準】

空間座標内の四面体に関する典型問題であった。外積や平面の方程式を用いれば容易に解くことができる。また、ベクトル方程式を用いても、それほど計算が面倒なわけでもないので、確実に解きたい問題である。

② 小問集合 (対数関数 (数学 II) / 整数の性質 (数学 A) / 対数関数 (数学 II)) 【標準】

(1)(3)は対数に関する典型問題で、計算量も少ないため、確実に得点したい。(2)は n 進法に関する問題で、類題を解いた経験がないと対応しづらい問題である。ここで差がつくだろう。

③ 積分法 (数学 III) 【やや易】

(1)は定積分計算、(2)は(1)の結果を用いて x 軸、 y 軸回転体の体積を求める問題であった。図が単純で、計算量も少ないため、この問題は確実に得点すべきである。

④ 確率 (数学 A) 【標準】

2 問とも反復試行の確率を求める典型問題であった。事象も単純で解きやすい問題であるが、やや計算が面倒であるため、計算ミスに注意が必要である。

【 解 答 】

① (1) $H\left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right)$, (2) $V=2$, (3) $AH : HP=1 : 2$, (4) $P(2, 1, 1)$

② (1) $c = \frac{1+ab}{1+a}$, (2) (a) 232312 (b) 69

(3) (a) 11 桁 (b) $a=4$ (c) 余り 4

③ (1) $I_1=1$, $I_2=\frac{\pi}{2}-1$, $I_3=\frac{\pi^2}{4}-2$

(2) $V_1=\frac{\pi^2}{4}$, $V_2=\frac{\pi^4}{4}-2\pi$

④ (1) (1-1) $\frac{125}{1944}$ (1-2) $\frac{175}{7776}$

(2) (2-1) $(1-p)^3(1+3p)$, $(1-p)^5(15p^2+5p+1)$ (2-2) $\frac{25-\sqrt{265}}{30} < p < 1$

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

【 問 題 】

1

座標空間において、 $O(0, 0, 0)$, $A(1, -1, -1)$, $B(2, 0, 2)$, $C(2, 2, 0)$ を頂点とする四面体がある。点 O から $\triangle ABC$ が作る平面に向かって垂線 OH を下ろす。線分 AH の延長と線分 BC の交点を P とする。次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) 点 H の座標を求めよ。
- (2) 四面体の体積 V を求めよ。
- (3) 線分 AH と線分 HP の長さの比 $AH : HP$ を求めよ。
- (4) 点 P の座標を求めよ。

2

- (1) 関係式 $2^a=3$, $3^b=5$, $6^c=10$ が与えられたとき、 c を a , b を用いて表せ。
- (2) 4 種類の数字 $0, 1, 2, 3$ を用いて表現された自然数を、次のように小さい方から順に並べる。

2, 10, 12, 20, 22, 30, 32, 100, 102, 110, 112, 120, 122, 130, 132, 200, ...
次の問いに答えよ。

- (a) 第 1489 項目の数値はいくつか。 (b) 2022 が現れるのは第何項目か。
- (3) $n=14^{100}$ とし、 n の最高位の数字を a とする。次の各問いに答えよ。なお、必要に応じて下記対数表を用いること。
 - (a) n の桁数を求めよ。 (b) a の値を求めよ。
 - (c) $a \times n$ を 15 で割った余りを求めよ。

$$\log_{10} 2 = 0.3010 \quad \log_{10} 3 = 0.4771 \quad \log_{10} 4 = 0.6021 \quad \log_{10} 5 = 0.6990$$

$$\log_{10} 6 = 0.7782 \quad \log_{10} 7 = 0.8451 \quad \log_{10} 8 = 0.9031 \quad \log_{10} 9 = 0.9542$$

3

(1) 次の各定積分の値を求めよ.

$$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x \, dx$$

$$I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x \, dx$$

$$I_3 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos x \, dx$$

(2) 不等式 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$, $\sin x \leq y \leq 1$ を満たす (x, y) の存在する範囲を x 軸のまわりに回転してえられる立体の体積を V_1 , y 軸のまわりに回転してえられる立体の体積を V_2 とする. V_1 , V_2 をそれぞれ求めよ.

4

(1) 1個のサイコロを繰り返し振る試行について, 次の問いに答えよ.

サイコロは, 1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとする.

(1-1) 1の目が2回出れば試行を終えることにする. ちょうど5回振って試行を終える確率を求めよ.

(1-2) 1の目が連続して2回出れば試行を終えることにする. ちょうど5回振って試行を終える確率を求めよ.

(2) ある工場では, 作られる製品のうち p ($0 < p < 1$) の確率で不良品が発生するという.

ある程度たくさんの製品が生産された時点で検査を行い, それに合格すれば一斉に出荷する. 検査方法として,

A: 4個抜き出して検査し, 不良品が1個以下なら合格

B: 7個抜き出して検査し, 不良品が2個以下なら合格

という2つの方法を考えた.

(2-1) A, Bそれぞれにつき, 検査で合格する確率を求めよ.

(2-2) Aのほうが合格しやすいのは p の値がどのような範囲のときか.

【 解 説 】

1

$$\overrightarrow{AB}=(1, 1, 3), \overrightarrow{AC}=(1, 3, 1)$$

$$\vec{n}=(-4, 1, 1) \text{ とすると } \overrightarrow{AB} \cdot \vec{n} = \overrightarrow{AC} \cdot \vec{n} = 0$$

$$\vec{n} \neq \vec{0}, \overrightarrow{AB} \neq \vec{0}, \overrightarrow{AC} \neq \vec{0} \text{ であるから } \overrightarrow{AB} \perp \vec{n}, \overrightarrow{AC} \perp \vec{n}$$

よって、 \vec{n} は $\triangle ABC$ が作る平面の法線ベクトルであるから、この平面の方程式は

$$-4(x-1)+1 \cdot (y+1)+1 \cdot (z+1)=0$$

$$\therefore -4x+y+z+6=0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$(1) \overrightarrow{OH} // \vec{n} \text{ であるから、ある実数 } k \text{ により } \overrightarrow{OH} = k\vec{n} = (-4k, k, k)$$

$$H \text{ は } \textcircled{1} \text{ 上の点であるから } 16k+k+k+6=0 \quad \therefore k = -\frac{1}{3}$$

$$\text{よって } \overrightarrow{OH} = \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right) \text{ であるから、点 } H \text{ の座標は } \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right)$$

$$(2) |\overrightarrow{AB}|^2 = 1+9+1=11, |\overrightarrow{AC}|^2 = 1+9+1=11, \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 1+3+3=7$$

よって、 $\triangle ABC$ の面積は

$$\frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2 |\overrightarrow{AC}|^2 - (\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{11^2 - 7^2} = 3\sqrt{2}$$

$$\text{また } |\overrightarrow{OH}| = \frac{1}{3} \sqrt{16+1+1} = \sqrt{2}$$

したがって、四面体の体積 V は

$$V = \frac{1}{3} \times \triangle ABC \times |\overrightarrow{OH}| = \frac{1}{3} \cdot 3\sqrt{2} \cdot \sqrt{2} = 2$$

$$(3) \overrightarrow{AH} = \overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OA} = \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right) - (1, -1, -1) = \left(\frac{1}{3}, \frac{2}{3}, \frac{2}{3}\right)$$

点 H は $\triangle ABC$ が作る平面上にあるから、ある実数 x, y が存在して

$$\overrightarrow{AH} = x\overrightarrow{AB} + y\overrightarrow{AC} = x(1, 1, 3) + y(1, 3, 1) = (x+y, x+3y, 3x+y)$$

$$\text{よって } x+y = \frac{1}{3}, x+3y = \frac{2}{3}, 3x+y = \frac{2}{3}$$

$$\text{これを解くと } x = \frac{1}{6}, y = \frac{1}{6}$$

$$\text{したがって } \overrightarrow{AH} = \frac{1}{6}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{6}\overrightarrow{AC} = \frac{\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC}}{2} \cdot \frac{1}{3}$$

$$\text{点 } P \text{ は線分 } AH \text{ の延長と線分 } BC \text{ の交点であるから } \overrightarrow{AP} = \frac{\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC}}{2}$$

$$\text{よって、} \overrightarrow{AH} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AP} \text{ であるから } AH : HP = 1 : 2$$

$$(4) (3) \text{ より } \overrightarrow{AP} = \frac{\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC}}{2} = \frac{1}{2} \{(1, 1, 3) + (1, 3, 1)\} = (1, 2, 2)$$

$$\text{よって } \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP} = (1, -1, -1) + (1, 2, 2) = (2, 1, 1)$$

$$\text{したがって、点 } P \text{ の座標は } (2, 1, 1)$$

別解1 (1)(3)(4)は、平面や直線のベクトル方程式を用いてもよい。

(1) 点 H は $\triangle ABC$ が作る平面上にあるから、ある実数 x, y, z が存在して

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OH} &= x\overrightarrow{OA} + y\overrightarrow{OB} + z\overrightarrow{OC} = x(1, -1, -1) + y(2, 0, 2) + z(2, 2, 0) \\ &= (x+2y+2z, -x+2z, -x+2y)\end{aligned}$$

と表せる。ただし、 $x+y+z=1$ ……① である。

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{AB} \text{ より } \quad \overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AB} &= (x+2y+2z, -x+2z, -x+2y) \cdot (1, 1, 3) = 0 \\ \therefore -3x+8y+4z &= 0 \quad \dots\dots②\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{AC} \text{ より } \quad \overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AC} &= (x+2y+2z, -x+2z, -x+2y) \cdot (1, 3, 1) = 0 \\ \therefore -3x+4y+8z &= 0 \quad \dots\dots③\end{aligned}$$

$$\text{①} \times 3 + \text{②} \text{ より } \quad 11y+7z=3 \quad \dots\dots④$$

$$\text{①} \times 3 + \text{③} \text{ より } \quad 7y+11z=3 \quad \dots\dots⑤$$

$$\text{④}, \text{⑤} \text{ が成り立つとき } y=z \text{ であるから, ④ より } \quad 18y=3 \quad \therefore y=z=\frac{1}{6}$$

$$\text{①} \text{ に代入すると } \quad x + \frac{1}{6} + \frac{1}{6} = 1 \quad \therefore x = \frac{2}{3}$$

$$\text{よって } \quad \overrightarrow{OH} = \frac{2}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{6}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{6}\overrightarrow{OC} = \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right)$$

$$\text{(3) } \overrightarrow{AH} = \overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OA} = \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right) - (1, -1, -1) = \left(\frac{1}{3}, \frac{2}{3}, \frac{2}{3}\right)$$

点 P は直線 AH 上の点であるから、ある実数 p が存在して

$$\overrightarrow{AP} = p\overrightarrow{AH} = p\left(\frac{1}{3}, \frac{2}{3}, \frac{2}{3}\right) = \left(\frac{p}{3}, \frac{2}{3}p, \frac{2}{3}p\right)$$

また、点 P は線分 BC 上にあるから、 $0 \leq t \leq 1$ なる実数 t が存在して

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AP} &= (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} = (1-t)(1, 1, 3) + t(1, 3, 1) \\ &= (1, 1+2t, 3-2t)\end{aligned}$$

$$\text{よって } \quad \frac{p}{3} = 1 \text{ かつ } \frac{2}{3}p = 1+2t \text{ かつ } \frac{2}{3}p = 3-2t$$

$$\text{これを満たすのは } \quad p=3, \quad t=\frac{1}{2}$$

$$\text{したがって, } \overrightarrow{AP} = 3\overrightarrow{AH} \text{ より } \quad AH : HP = 1 : 2$$

$$\text{(4) (3) より, } t = \frac{1}{2} \text{ のとき } \overrightarrow{AP} = (1, 2, 2) \text{ であるから,}$$

$$\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP} = (1, -1, -1) + (1, 2, 2) = (2, 1, 1)$$

よって、点 P の座標は $(2, 1, 1)$

別解1 終わり

別解2 (2)の体積は外積を用いると容易に求めることができる。

$\overrightarrow{OA} \times \overrightarrow{OB} = (-2, -4, 2)$ であるから

$$V = \frac{1}{6} |(\overrightarrow{OA} \times \overrightarrow{OB}) \cdot \overrightarrow{OC}| = \frac{1}{6} |(-2, -4, 2) \cdot (2, 2, 0)| = \frac{1}{6} |-12| = 2$$

別解2 終わり

2

(1) $2^a=3$, $3^b=5$, $6^c=10$ より $a=\log_2 3$, $b=\log_3 5$, $c=\log_6 10$

よって

$$\begin{aligned}c &= \log_6 10 = \frac{\log_2 10}{\log_2 6} = \frac{1 + \log_2 5}{1 + \log_2 3} = \frac{1 + \frac{\log_3 5}{\log_3 2}}{1 + a} = \frac{1 + \log_2 3 \log_3 5}{1 + a} \\ &= \frac{1 + ab}{1 + a}\end{aligned}$$

(2) 各項を 4 進法で表された数であるとみなし, その数を 10 進法に直すと

$$2, 10_{(4)}=4, 12_{(4)}=6, 20_{(4)}=8, 22_{(4)}=10, 30_{(4)}=12, 32_{(4)}=14, \dots$$

であるから, 与えられた数列は, 正の偶数を小さい順に並べ, 4 進法で表した数列であることがわかる.

(a) 第 1489 項目は, 10 進法で 1489 番目の正の偶数であるから

$$\begin{aligned}2 \times 1489 &= 2998 \\ &= 2 \cdot 4^5 + 3 \cdot 4^4 + 2 \cdot 4^3 + 3 \cdot 4^2 + 1 \cdot 4^1 + 2 \cdot 4^0 \\ &= 232312_{(4)}\end{aligned}$$

よって, 第 1489 項目は **232312**

(b) 2022 を 10 進法に直すと

$$2022_{(4)} = 2 \cdot 4^3 + 2 \cdot 4^1 + 2 \cdot 4^0 = 128 + 8 + 2 = 138 = 2 \times 69$$

よって, 69 番目の正の偶数であるから, 第 **69** 項である.

(3)(a) $\log_{10} n = 100 \log_{10}(2 \cdot 7) = 100(\log_{10} 2 + \log_{10} 7)$

$$= 100(0.3010 + 0.8451) = 114.61$$

よって $10^4 \leq n < 10^{15}$ が成り立つから, n の桁数は **11** である.

(b) $n = 10^{114.61} = 10^{114} \times 10^{0.61}$

ここで $\log_{10} 4 = 0.6021$, $\log_{10} 5 = 0.6990$ より

$$\log_{10} 4 < 0.61 < \log_{10} 5 \quad \therefore 4 < 10^{0.61} < 5$$

よって, n の最高位の数は 4 であるから $a = 4$

(c) 整数 p , q , r について, $p - q$ が r の倍数であることを $p \equiv q \pmod{r}$ と表す.

このとき $14 \equiv -1 \pmod{15}$ であるから

$$a \times n = 4 \times 14^{100} \equiv 4 \times (-1)^{100} \equiv 4$$

よって, $a \times n$ を 15 で割った余りは **4** である.

3

$$(1) \quad I_1 = \left[-x \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x \, dx = \left[\sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 1$$

$$I_2 = \left[x \sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx = \frac{\pi}{2} + \left[\cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2} - 1$$

$$\begin{aligned} I_3 &= \left[x^2 \sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x \, dx \\ &= \frac{\pi^2}{4} - 2I_1 = \frac{\pi^2}{4} - 2 \end{aligned}$$

(2) 右図の斜線部分を x 軸のまわりに回転してえられる立体の体積が V_1 , y 軸のまわりに回転してえられる立体の体積が V_2 である。

V_1 について, $y=1$ を回転させてえられる円柱の体積から, $y=\sin x$ を回転させてえられる立体の体積を引くと考えて

$$\begin{aligned} V_1 &= \pi \cdot 1^2 \cdot \frac{\pi}{2} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi (\sin x)^2 \, dx \\ &= \frac{\pi^2}{2} - \frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos 2x) \, dx \\ &= \frac{\pi^2}{2} - \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{1}{2} \sin 2x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi^2}{2} - \frac{\pi^2}{4} = \frac{\pi^2}{4} \end{aligned}$$

また $V_2 = \int_0^1 \pi x^2 \, dy$

ここで $y = \sin x$ より $dy = \cos x \, dx$,

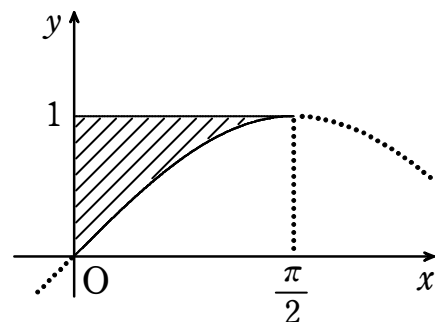
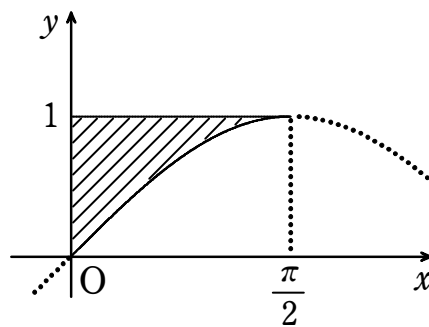
y	$0 \rightarrow 1$
x	$0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$

よって $V_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi x^2 \cos x \, dx = \pi I_3 = \frac{\pi^3}{4} - 2\pi$

別解 V_2 はバームクーヘン分割で求めてもよい。

$x = \frac{\pi}{2}$ を y 軸のまわりに回転させてえられる円柱の体積から, $y = \sin x$ を y 軸のまわりに回転させてえられる立体の体積を引くと考えて

$$\begin{aligned} V_2 &= \pi \left(\frac{\pi}{2} \right)^2 \cdot 1 - \int_0^{\frac{\pi}{2}} 2\pi x \sin x \, dx \\ &= \frac{\pi^3}{4} - 2\pi I_1 = \frac{\pi^3}{4} - 2\pi \end{aligned}$$



別解 終わり

4

(1)(1-1) 4回目までに1の目が1回, 1以外の目が3回出て, 5回目に1の目が出る
ときであるから, その確率は

$${}_4C_1\left(\frac{1}{6}\right)\left(\frac{5}{6}\right)^3 \times \frac{1}{6} = \frac{4 \cdot 5^3}{6^5} = \frac{125}{1944}$$

(1-2) 1の目が出ることを○, 1以外の目が出ることを×と表すと, 5回振って
試行を終えるのは

$$\bigcirc \times \times \times \bigcirc \bigcirc, \times \bigcirc \times \bigcirc \bigcirc, \times \times \times \bigcirc \bigcirc$$

となるときであるから, その確率は

$$\left\{2 \times \left(\frac{1}{6}\right)\left(\frac{5}{6}\right) + \left(\frac{5}{6}\right)^2\right\} \times \frac{5}{6} \left(\frac{1}{6}\right)^2 = \frac{35 \times 5}{6^5} = \frac{175}{7776}$$

(2)(2-1) 検査A, Bで合格する確率をそれぞれ $P(A)$, $P(B)$ とおく.

検査Aで合格するのは, 抜き出した4個の製品のうち, 不良品が0個または1個の
ときであるから,

$$P(A) = (1-p)^4 + {}_4C_1 p(1-p)^3 = (1-p)^3(1+3p)$$

検査Bで合格するのは, 抜き出した7個の製品のうち, 不良品が0個または1個または
2個のときであるから,

$$\begin{aligned} P(B) &= (1-p)^7 + {}_7C_1 p(1-p)^6 + {}_7C_2 p^2(1-p)^5 \\ &= (1-p)^5\{(1-p)^2 + 7p(1-p) + 21p^2\} \\ &= (1-p)^5(15p^2 + 5p + 1) \end{aligned}$$

(2-2) 検査Aの方が合格しやすいのは $P(A) > P(B)$ となるときであるから,

$$(1-p)^3(1+3p) > (1-p)^5(15p^2 + 5p + 1)$$

$0 < p < 1$ より $1-p > 0$ であるから

$$1+3p > (1-p)^2(15p^2 + 5p + 1)$$

$$15p^4 - 35p^2 + 6p^2 < 0$$

$p^2 > 0$ であるから $15p^2 - 25p + 6 < 0$ と同値である.

$$15p^2 - 25p + 6 = 0 \text{ のとき } p = \frac{25 \pm \sqrt{25^2 - 4 \cdot 15 \cdot 6}}{30} = \frac{25 \pm \sqrt{265}}{30}$$

よって, $0 < p < 1$ であるから $\frac{25 - \sqrt{265}}{30} < p < 1$